

「第30回 伊豆大島 トライアスロン大会」 報告

2018/06/09



第30回 伊豆大島トライアスロン大会

6月9日（土）、東京都大島町の元町港を中心に、「第30回 伊豆大島トライアスロン大会」が開催されました。

トライアスロンは、海を泳ぐ「スイム」、自転車ロードレースの「バイク」、長距離を走る「ラン」の3種目からなり、そのタイムを競う競技です。その過酷さから、「超人のスポーツ」とも呼ばれています。300人を超える超人的な選手たちが伊豆大島に集まり、競い合いました。

今大会では、初めて首都大の学生がボランティアとして参加させていただきました。また、首都大の学生ボランティアが唯一の島外からのボランティアだったそうです。

・トライアスロン実行委員会

大会前日である6月8日（金）に、大島町役場にてトライアスロンの実行委員会が開催され、ボランティアとして参加する本学の学生も出席しました。大会運営に携わる方々が集まる中で、首都大の学生を紹介していただき、また励ましの声もいただきました。

実行委員会後に行われた担当者会議では、首都大生が担当する「折り返しチェック係」のメンバーと顔を合わせ、役割の説明を受けました。

学生全員が初めて伊豆大島を訪れるということで、トライアスロンのコースの位置関係等、分からないことも多かったのですが、町の方々の丁寧な説明を聞いたり、分からないことを質問したりしながら、自分たちの当日の動きを確かめました。

会議の合間に町の方々が学生に声をかけてくださったことで、交流ができ、初めての伊豆大島で緊張していた学生の表情も和らいでいくのが分かりました。

・第30回 トライアスロン大会

いよいよトライアスロン当日です。最も心配されたのが天気でした。昨年の第29回の大会では、天気が悪く、海が荒れていたため1種目目の「スイム」が実施できなかったそうです。

今年も事前に雨天予報が出ており、受付を待つ多くの選手から「今日はスイムがあるのか」と心配の声が多く寄せられるほどでした。しかし、そんな心配がいらぬほど、空には晴れ間がどんどん広がっていき、競技開始の1時間前には、海

の波も穏やかな絶好のトライアスロン日和となりました。

学生が担当する受付係と「ラン」の5km・10km地点の折り返しチェック係の活動もいよいよ始まります。

・受付係

選手は自分が出場するAタイプ(スイム:1.5km、バイク:20km、ラン:10km)、Bタイプ(スイム:0.75km、バイク:10km、ラン:5km)、リレーのそれぞれに分かれ、受付をします。学生は、受付で選手に大会参加賞を手渡ししたり、受付を終えた選手に、水やバナナを渡したりしました。

競技開始直前ということで、選手の表情には緊張感が見えましたが、どの選手もこれから始まる年に1度の伊豆大島トライアスロンが楽しみで、わくわくしている様子でした。

・ラン5km、10km地点折り返しチェック

次に学生は、「ラン」の折り返しとなる5km地点、10kmにそれぞれ分かれて出発しました。

AタイプとBタイプでは、ランの折り返し地点が異なります。学生はそれぞれの担当場所で、折り返す選手を誘導したり、折り返した選手のゼッケン番号をチェックしたりしました。「スイム」「バイク」を終えた選手たちが、最後の力を振り絞って走る姿、最後まで笑顔で走る姿、苦しい表情をしながらも決して足を止めない姿など、選手一人ひとりの姿が印象的でした。

・学生の感想

・これまでのボランティアでは、ゴールした選手に対して行う活動が多かったので、競技中に応援したり、返事をもらったりしたことが、新鮮で楽しかったです。

・ランナーの方たちが頑張っている姿を間近で見ることができ、感動しました。その大会の運営に自分たちが関わっていると思うと、とてもやりがいがありました。

・自分たちが応援の声をかけると、ランナーの方が、「ありがとう」と言ってくれたり、嬉しかったです。

・島全体で大会を盛り上げている様子が伝わってきて、とても良かったです。



選手に水やバナナを手渡す学生

受付を終えた選手に大会運営側が用意した水やバナナを手渡している様子です。競技開始前ということもあり、選手の表情には、緊張や不安、期待等、色々な感情が入り混じっています。そんな選手たちを励まし、応援するように、学生たちは選手に声をかけ、水を手渡したり、笑顔で接したりしていました。



「バイク」で誘導を行う学生

「バイク」のコースの一部は、「ラン」のコースと同じ道路でした。そのため、「ラン」の折り返し地点で待つ学生の目の前を選手が通ります。学生たちは、沿道から大きな声で選手を応援したり、選手の誘導をしたりしました。

疲れているはずの選手が、学生や地域の方々の応援の声に、「サンキュー！」「がんばります！」「返事をする様子が、とても温かく、島全体でトライアスロン大会を盛り上げ、楽しんでいる雰囲気を感じることができました。